

平成25年度 第3回 尾道市公立大学法人評価委員会 議事要旨

日時：平成25年11月18日(月) 14時～15時50分

場所：尾道市立大学1階第3会議室

- 議題：1 尾道市公立大学法人評価委員会 委員長の選任について
2 平成25年度第2回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
3 公立大学法人尾道市立大学平成25年度年度計画進捗状況について
4 その他

【議 題】

- 1 尾道市公立大学法人評価委員会 委員長の選任について
堂本時夫委員を委員長として選任した。
- 2 平成25年度第2回尾道市公立大学法人評価委員会議事要旨について
平成25年度第2回評価委員会議事要旨について、審議の結果、全員一致で原案どおり承認することとし、速やかに公開することとした。
- 3 公立大学法人尾道市立大学平成25年度年度計画進捗状況について
公立大学法人尾道市立大学平成25年度年度計画進捗状況について、126項目のうち主だったものについて公立大学法人尾道市立大学より説明があった後に、次の議論があった。

国際交流について

- (委員) シドニー大学への留学する人数、費用補助、期間、内容、現在の申込人数、申込みの多い学部について詳しく教えてほしい。
- (大学) 予定人数は6人で、最少人数の設定はしていない。費用補助は、1人につき15万円としている。期間は1か月の短期語学留学である。現在の申込状況は5～6人で、経済情報学部の申込みが多いが、他の学科からの申込みもある。
- (委員) 留学に対する学生の意気込みはどうか。
- (大学) 熱心に聞いている学生が多く、新しい経験をしたいという学生がかなりいる。
- (委員) 広島大学では留学生を増やす方策として、1週間から10日間の短期留学の費用全額を大学が負担し、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、インドネシア等に学生を送り出している。
その成果により、長期留学につなげている。

学生の費用負担が無いことから、沢山の学生の志願があり、経済学部から20人ぐらい毎年参加している。

また、台湾の国立政治大学と人権をテーマにした交流をショートステイ等のスタイルで、1週間から10日間ほどで行っているが、これは文部科学省に申請して全額国費補助を受けている。

その他にも、国費補助の留学があるが、期間・費用負担も様々である。

(委員) 国費留学は国立大学の利用が多く、公立大学まで回ってこない。公立ならではの取組みがあっても良いと思うので検討してみてもどうか。

地域貢献について

(委員) 地域活性化企画において、発表会を開催し好評を得たと記載されているが、内容について教えてほしい。商店街の活性化の参考になるようなものがあつたか知りたい。

(大学) 地域活性化企画は、地域の課題等について学生が意見を出し、企業からコーディネーターとして入っていただき、プレゼンテーションの方法や作業を進めるうえでのアドバイスをいただきながら会を進めている。

この企画については、作品を展示する展覧会を併せて開催している。作品展示したCM作品を地元企業に買い上げていただき、広報活用されている。

また、企画発表したものについて、地域活性化に向けた優秀な発表に対して共催団体のアドバイザーから賞が付与されている。

商店街の活性化につながる様な取組みについては、今後発展していけば良いと考えている。

(委員) 地域活性化企画は、デザインコースの学生だけの参加なのか、経済情報学部を含めて行えば商店街と繋がりやすくなるのではないか。

(大学) デザインの授業として行っているものである。昨年度は経済情報学部の学生も1名参加していた。今年度の発表の中には、学生の視点で見た地域の店舗の地図を作成し紹介したものが高い評価を受けていた。これが商店街にも繋がっていけば良いと考える。

(委員) 美術系の活動は他の大学と比べても話題性は提供できており突出していると思う。しかし、尾道は日本文学においても知名度が高いが、地域貢献について、日本文学の活動は報道等で接することが無い。学内、学生の雰囲気をもどかのように感じられているのか。

(大学) どういった形で、地域貢献、町と交わるか色々話題には出るが、公民館活動的な所で地域の方々から求められていることに答える形になると思う。私は方言担当なのでそういう観点からリクエストがあれば色々な形で、私達が持っているものを還元することもある、なかなか美術のようにこちらから地域へ入っていくアイデアが広がらない。雰囲気的には

後ろ向きではない。

文学三昧という企画をやり始めたことで、大学内で行っていたことを外部から見てもらい学生を鍛えたい。研究だけでなく、研究を核にして出てくる文化活動との関わりを見ていただき、市民が入ってきやすい催しにしたい。

文学賞を作るなどのアイデアはあるが、取組みについて課題がある。

(委員) 勇気を持って、進めていただきたい。尾道は全国区の名前である。文学と尾道のコラボレーションを期待する。

企業との係わりについて

(委員) 既に取組みを行っているかもしれないが、尾道・福山近隣には特徴のある企業がたくさんある。企業が学生に何を求めているか、企業の社長を招いて色んな話を聴かれて学生に還元するのも良いと思う。

(大学) キャリア演習の中で毎年経営者を招いて行っている。

(委員) 尾道には、オンリーワン、ナンバーワンの企業が多い。学生が地元企業の何がオンリーワンで、何がナンバーワンなのかを知っておくことも地域を知ることだと思う。

総括

(委員) 平成25年度の重点項目について、法人化した次の年にはこれをやっておくというものを市民に示すこと、評価委員会としても重点的に評価していくので、その整理をしておくこと。

平成24年度に発生した剰余金の使途については、定まっているのか。

(大学) 平成24年度に発生した剰余金は、目的積立金として積み立てているが、今年度使用しておらず、用途についても検討中である。本年度予算の中で足りているが、年度計画の中で積立金の取崩しが発生する可能性はある。

(委員) 500万円程、学生の国際交流に使ってみてはどうか。教育・研究どちらかに重点的に使う試みを勇気をもって行っても良いと思う。大学の人材、大学の質を高める、アピール度を高めるためになると思う。

(委員) 評価全体としては、昨年は法人化一年目で基礎固めの評価であり、今年度からは成果を出していくものだと考えている。それを評価委員会が評価していくものである。

例えば、コース制の専門課程について取り組んだ実績があれば、今年度の評価をしやすくなる。

地域連携においては、公立大学は学部数が限られている。それぞれの大学が独自で行うことも重要だが、特色ある学部を持っている広島県内の瀬戸内ラインの公立大学4校が連携できれば、地域連携として補い合っていけるのではないかな。

4 その他

- ・業務実績評価における各委員の役割分担について

昨年度評価と同様の役割分担とし、中谷前委員が担当していた「教育の質の向上」については、宜名眞委員が担当する。

- ・平成26年度 尾道市公立大学法人評価委員会の開催時期について

7月に2回開催することとし、第1回と第2回の間隔を空けて、評価に充てる時間を確保する。